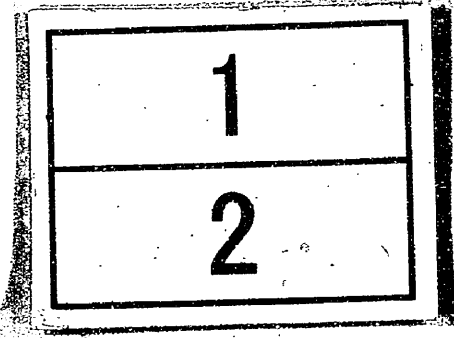


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0056

0057



機	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混	機	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混	機	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混			
施	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混	機	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混	機	煙	推	重油	機	掃	灰	年	送	噴	給	專	混			
地	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒	室	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒	室	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒			
及	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒	室	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒	室	突	進	加	外	除	放	實	風	燃	水	燒	燒			
着	3	3	16	5	10	4	34	6	6	10	36	32	4	2	16	4	5	10	4	34	6	6	10	36	32	4	2	16	4	5	10	4	34	6	6	10	36	32			
手	2	2	6	2	2	4	12	3	4	10	12	8	4	2	4	4	2	2	4	12	3	4	10	12	8	4	2	4	4	2	2	4	12	3	4	10	12	8			
年	未	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	未	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	未	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元		
月	未	未	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	未	未	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	未	未	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通	通			
予	未	未	加	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	加	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未			
定	未	未	賀	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	賀	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未		
横須賀(二二上)	同	未	土	未	元	元	土	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元		
横須賀(三二上)	同	未	土	未	元	元	土	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	
横須賀(三三上)	同	未	土	未	元	元	土	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
横須賀(四二上)	同	未	土	未	元	元	土	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	同	未	土	未	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元

主力艦改造諸機械等概要表(決定)



各工廠造船部職工所要員數調

海軍省本部第五部
(11-3-29)

年度	横	吳	佐	舞	計
11	4,963	4,282	3,432	1,841	14,518
12	4,980	5,470	2,373	1,239	14,062
13	3,223	4,518	2,169	1,228	11,138
14	3,971	5,503	2,653	1,616	13,743
15	3,417	4,257	2,479	1,372	11,525
16	1,285	3,207	1,984	758	7,234

備考

- 附屬工教員含ム
- 廣造船部ハ吳ニ含ム
- 雜船製造、一般修理、雜船修理、特定修理、總テ大正十一年ニ予算經費要求書各目明細書ニヨリ各年毎々一ト見ル
- 主力艦改造ハ各艦改造ニ事方針ニヨルニ事ヲ大正十一年迄半ヨリ始テ一年間ニ巡戰艦、戰艦各一艘死、最後ニ長門、陸奥ヲ完成スルモノトセリ
- 補助艦特定修理ニ事ハ佐、舞ニ割当アリ
- 新艦ニ事ハ大正十一年三月十五日訂由艦艇建造分配案(以テ右少許改正アリ)ニ依リ、且シ工廠割当大替九艘、亦構、一艘ハ以テ社ニ注文セリ、七十号ヲ吳ニ一艘ハ横ニ製造中、六十四号及七号ニ吳ニ製造中、七十八号ヲ舞ニ六艘、亦構吳佐、各一艘ハ製造繼續中、千三百号内四百号迄ヲ裝備スルモノトテ予定セリ
- 廢棄艦艇ハ現在予定ニ依リ工廠ニ廢棄処分ヲナスモノトセリ

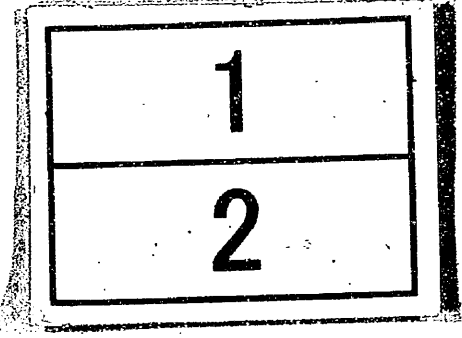
0058

⑧参考：為新艦(前記艦艇建造分配率=ヨル)補修類=要ス職工員数
 (ア所属工員数ヲ含ム)ヲ次ニ掲グ

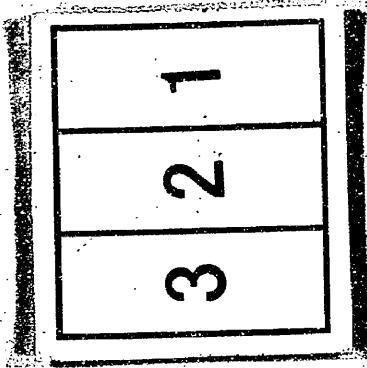
年度	11	12	13	14	15	16
員数	19	352	884	1,446	1,087	582

0059

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0062

0063

0064

廢棄艦處分方案 (造船所掌部) 内定

艦政本部第五部(一三三八)

廢棄處分 工ヲナス 廠		横 須 賀 吳														
艦名	廢棄處分	三 笠	安 藝	富 士	朝 日	生 駒	加 賀	鞍 馬	櫻 津	周 防	石 見	土 佐	香 取	鹿 島	伊 吹	敦 島
一般處分	第一期處分後引續解体	第一期處分後若ハ本處分前ニ實彈射撃ヲ實驗シテ撃沈ノ予定	第一期處分ヲナス運用術練習用ノ予定	第一期處分ヲナス横海兵團練習用兼標的船ノ予定	主砲塔ニ陸揚ノ上佐世保ニ回航ス	水雷爆彈射撃ノ予定ソノ後解体	第一期處分後引續解体	第一期處分(但シ(1)ニ適用スルニ關シテハ必要ナル限リヲナス)吳海兵團練習用兼標的船ノ予定	第一期處分ヲナス要スル艦泊小學校用ノ予定	第一期處分ヲナス雜船ノ予定	射撃實驗ノ了定ソノ後解体	砲塔陸揚ノ上舞鶴ニ回航ス	砲塔陸揚ノ上舞鶴ニ回航ス	砲塔陸揚ノ上舞鶴ニ回航ス	主砲塔ニ陸揚ノ上佐世保ニ回航ス	第一期處分ヲナス佐世保
造船所掌工事	全部陸揚	全部陸揚	實驗前單面在四座及出入口ヨリ取出シ得ルモノ全部ヲ陸揚ス	ナシ	ナシ	ナシ	實驗前全部陸揚	全部陸揚	ナシ	ナシ	ナシ	實驗前陸揚ヲ要スルモノ機械室全部ノ他在室等出入口取出シ得ルモノ全部ヲ陸揚ス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

造船所掌陸揚後ノ處置

- 加賀 土佐ニ對シ
- 陸揚品(建造會社ヨリ送附ノ全艦所屬モノヲ含ヒ)ハ總テ陸揚工廠ニ保管貯藏シノ品名目録ヲ艦政本部ニ通知スルコト
- 三笠 安藝 鞍馬 薩摩 肥前 生駒 伊吹 香取 鹿島ニ對シ
- (一)出師準備品教育品工場設備品新艦及修理用品トシテ貯藏ヲ要スルモノハ別表ニ示ス
- 別表ハ追テ配付ス
- (二)第一項以外、推進器、陸揚工廠ニ於テ地金材料トシテ貯藏保管ス
- (三)第一項以外、計器又通信裝置、發信器受信器類ハ總テ陸揚工廠ニ於テ貯藏保管ス
- (四)第一項以外、重油焚燃器、舞鶴工廠ニ送付シ全廠ニ貯藏保管ス
- (五)第一三及四項以外、モノニ對シテハ次ノ通りトス
- (1)諸機械、缶、軸系、管、管嘴、板又通信裝置類中陸揚工廠ニ材料地金等ヲ使用ヲ希望スルモノハ貯藏保管ス
- (2)薄板類中(1)掲ケ以外モノハ船体材料ト全樣ノ取扱ヲナスコト
- (3)前記(1)(2)以外物品材料ハ陸揚工廠ニ規程ノ手續ヲ踏ミ適宜賣却スルコト但シ吳ニテ解体スル艦ニ對シテハ右該當物品材料中適宜船体材料ト共製鋼材料トナスコト
- (4)前諸項處分結了ノ上ハ詳細艦政本部ニ通知スルコト
- (5)特規定ナキ限リ貯藏保管場所ノ陸揚工廠トス
- (6)所要 假倉庫建設費、舞鶴工廠宛重油焚燃器及吳工廠宛製鋼材料 運搬費ハ廢棄用配付予算中ニ支辨スルモノトス
- 注意(一)土佐陸上準備材料ハ高嶺ノモノト共吳工廠ニテ又加賀陸上準備材料ハ及右ノモノト共三橫須賀工廠ニ貯藏

鶴 舞		保 世 佐					吳					
鹿 島	香 取	伊 吹	生 駒	肥 前	薩 摩	敷 島	伊 吹	鹿 島	香 取	土 佐	石 見	尾 院
第一期処分後引續解体	第一期処分後引續解体	第一期処分後引續解体	第一期処分後引續解体	第一期処分後引續解体	第一期処分後若くは本処分 前二海軍軍射撃予定実験 撃沈予定	第一期処分予定 海兵團練習用予定	主砲塔陸揚上佐世保 二回航ス	砲塔陸揚上舞鶴二回 航ス	砲塔陸揚上舞鶴二回 航ス	射撃予定予定ノ後 解体	第一期処分予定 雜船予定	小學校用予定
全部陸揚	全部陸揚	全部陸揚	全部陸揚	全部陸揚	可成現状ノ終トスルモ上記 ニ差支ナキ限リ實驗前出入口 ヲ取出レ得ル計各 禁燃器補機類ヲ陸揚スルモトス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	實験前陸揚ヲ要スルモノ 機械等全部ノ他並ニ等出 身ヲ取出レ得ルモノ全部 残部ヲ陸揚後陸揚事	ナシ	ナシ

備考

軍艦廢棄ニ関スル規定抜萃

(一) 軍艦が廢棄時期ニ到達シタルトキ、直ニ第一期廢棄即チ之ヲ戰闘任務ニ服シ得ガル状態ニ置テ、着手スベシ
 (二) 左記諸物件ヲ撤去陸揚シ又ハ破壊シタルトキ、軍艦カ爾後戰闘任務ニ服シ得ガル状態ニアルモノト認ム

(1) 一切、砲火指揮所並一切、砲塔旋回部

(2) 砲、原働水圧又ハ電力装置ニ関スル一切、機械

(3) 一切、砲火指揮用具又距離測定儀

(4) 一切、彈藥爆藥及機雷

(5) 一切、魚雷母員用頭部及發射管

(1) 薄板類中(1)掲ケル以外ノ船体材料ト全様ノ取扱
ヲナスコト
 (2) 前記(1)以外物品材料、陸揚工廠ニ規程ノ手續ヲ踏
ミ、適宜賣却スルコト但シ、兵ニテ解体スル艦ニ對シテハ
右該当物品材料中適宜船体材料ト共ニ製鋼材料ト
ナスコト
 (3) 前諸項處分結了シ、上ハ詳細艦政本部ニ通知スルコトス
 (4) 特規定ナキ限リ貯藏保管場所ノ陸揚工廠トス
 (5) 所要、假倉庫建設費、舞鶴工廠宛重油焚燃器
及吳工廠宛製鋼材料、運搬費、廢棄用配付
予算中ニ支辨スルモノトス
 注意(一) 土佐陸上準備材料、高雄、モト共ニ吳工廠ニ又加賀陸
上準備材料、伊及名モト共ニ橫須賀工廠ニ貯藏
保管予定
 (二) 前記陸上準備材料、出來得ル限リ全部吳工廠行キモ、ハ
土佐、橫須賀工廠行キ、モ、ハ加賀ニ搭載セルモノト予定
 (三) 土佐實驗對スル造船所工事ヲ長崎ニ受造船所ヲ
施行スル場合ニハ
 (4) 合造船所ニテ本艦實驗前陸揚ヲ要スルモノ全部取外上
本艦及高雄、陸上準備材料ト共ニ上甲板ノ他ニ積
込ミ、吳入港、上ハ船体部工事ナクシテ直ニ陸揚ヲ
ナシ得ル様準備ヲナサレムコト予定
 (5) 若シ實驗前本艦ヲ直接實驗地ニ面航スル場合ニハ
合造船所ニテ本艦實驗前陸揚ヲ要スルモノ全部
取外上本艦及高雄陸上準備材料ト共ニ一時貯
藏保管セルモノト予定
 (6) 部外諸學校ヲ希望スル教育用品ニ對シテハ當該學校
當事者ヨリ陸揚工廠長ニ直接申出シ、工廠長ハ第五項
 (7) 中ヨリ適宜ノ希望ニ応ジ供給レ得ル様アレ度予定
ヲ以テ研究中ナリ

世保		鶴舞	
肥前	第一期處分後引續解体	鹿島	第一期處分後引續解体
生駒	第一期處分後引續解体	香取	第一期處分後引續解体
伊吹	第一期處分後引續解体	全部陸揚	全部陸揚
全部陸揚	全部陸揚	全部陸揚	全部陸揚

(一) 軍艦が廢棄時期に到達シタルトキ、直ニ第一期廢棄即チ之ヲ戰闘任務ニ服シ得ザル状態ニ置テ、着手スベシ
 (二) 左記諸物件ヲ撤去陸揚シ又ハ破壊シタルトキハ、軍艦カ爾後戰闘任務ニ服シ得ザル状態ニアルモノト認ム
 (三) 部外諸學校ニ希望スル教育品ニ對シテハ、當該學校當事者ヨリ陸揚工廠長ニ直接申出シテ工廠長ハ第五項(ハ)中ヨリ適宜ソノ希望ニ応ジ供給シ得ル様テシ度予定ヲ以テ研究中ナリ
 (四) 本艦實驗ニ對シテ本艦實驗前陸揚ヲ要スルモノ全部取外上本艦及島嶼ノ陸上準備材料ト共ニ上甲板ノ他ニ積込ミ入港シテ、船舶部ニ工事ナリシテ直ニ陸揚ヲナシ得ル様準備ヲナシテ予定
 (五) 若シ實驗前本艦ヲ直接實驗地ニ回航スル場合ハ、全造船所ヲレテ本艦實驗前陸揚ヲ要スルモノ全部取外上本艦及島嶼ノ陸上準備材料ト共ニ一時貯藏保管セシムル予定

備考

軍艦廢棄ニ関スル規定抜萃

- (一) 軍艦が廢棄時期に到達シタルトキ、直ニ第一期廢棄即チ之ヲ戰闘任務ニ服シ得ザル状態ニ置テ、着手スベシ
- (二) 左記諸物件ヲ撤去陸揚シ又ハ破壊シタルトキハ、軍艦カ爾後戰闘任務ニ服シ得ザル状態ニアルモノト認ム
 - (1) 一切砲及砲ノ須要部分砲火指揮所並一切砲塔旋回部
 - (2) 砲ノ原働水圧又電力装置ニ関スル一切機械
 - (3) 一切砲火指揮用具及距離測定儀
 - (4) 一切彈藥爆藥及機雷
 - (5) 一切魚雷實用頭部及發射管
 - (6) 一切無線電信裝置
 - (7) 司令塔及一切舷側裝甲又ハ此等ニ代フルニ主要推進機械ノ全部
 - (8) 一切飛行用甲板及其他一切各航空用附屬物件
- (三) 軍艦ノ廢棄ヲ實行スベキ期間左ノ如シ

本條約ノ効力發生時廢棄セラルベキ軍艦ニ就テハ本條約ノ効力發生時ヨリ六箇月以内ニ第一期廢棄ノ作業ヲ完了シテ十八箇月以内ニ廢棄全部ヲ完了スルモノトス
- (四) 本表記載ノ軍艦中條約ヨリ規定ノ所置後保存シ得ベキ軍艦左ノ通り

根津 朝日 敷島 石見 富士 周防

(終)

極秘

艦本五機密第一四九號

大正十一年三月三日

藤原海軍艦政本部總務部長殿
增井海軍艦政本部第五部長

研究機関ニ関スル件

本件ニ関スル當部案別紙ノ通
右送付ス

別紙一部添

(終)

0065

研究機關ニ関スル案

五部(二、三、三)

中央技術研究部(新設)

一、中央ニ置キ艦政本部長ニ隸屬セシム

一、左、五班ヲ置ク

第一班 蒸 務

第二班 造 船

第三班 造 機

第四班 造 兵

第五班 理化學(半基礎的)

一、第一班以外各班ニハ直屬ノ研究所ヲ附屬セシム

各研究所ニハ必要ニ應ジテ研究室工場並ニ

實驗室等ヲ設備ス

0066

一 各班（第一班及第五班ヲ除ク）ハ各研究機關連
 絡シテ研究ノ實驗結果ノ綜合統一並ニ直接中
 央ニテ施行ヲ便トスルモノ、實驗研究ヲナス
 第五班ハ第二班以下第四班ニ對スル基礎的理化
 學子研究ヲナス

一 現在中央所在ノ研究所試驗所ハ出來得ル
 限リ中央研究部ニ屬セシム（附圖例參照）

地方研究部

一 所要ノ地方研究部ハ地方廠内ニ置ク但シ特
 別ノ事情トシテ廠ニ屬セシム難キハ中央研究部
 部ニ屬セシム（附圖例參照）

一 地方研究部ハ特ニ地方ニ於テ更トスル

研究員驗ニ當ル

例、廣支、廠機、關研究部(現存)ハ左記ノ事項ヲ

ナク

機械、出補機、材料、工作法、工具、工作機械、工場

設備等總テ機關ニ關スル研究員驗ニシテ

中央研究部及工廠造機部研究課ニテナス以

外ノモノ

工廠各部研究課(新設)

一 工廠各部研究課ヲ置キ左ノ事項ヲナス

(1) 工作法、工具、工作機械、工場設備、工場經濟等

科學的工場管理法及此ヲ利用シ研究員並ニ諸

研究員實驗等ニシテ實際工事ニ密接ノ關

係ヲ保ツル便トスル事項

(四) 其他、研究實驗ニシテソノ部ノ特ニ希望スルモノ
 若ハ設備ノ關係上特ニ命セラレタルモノ
 以上ニ對スル造機關係所要定員ヲ左ニ揚ク

長
 部員
 附

研究部第三班	技師	一	技師	一	特務主任	二	判任文官	二〇
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一
廣研究部	技師	一	技師	一	技師	一	技師	一

(終)



現在訓令研究事項之要領

(一)

「テイセル」機械用掃除唧筒試験

目的、中型潜水艦用「スルサー」式「テイセル」機械ヲ装備

「タイプボ」ガロ「ア」ニ代ル「キ」直結掃除唧筒ヲ製造

實驗シ之ガ實用的効力ヲ確認セントスルニヤリ

試験ノ狀況、十年二月横須賀、訓令セラレ同年五月

試験ニ着手セシガ構造一部ニ變更ノ必要ヲ生シ

目下改造中、本年申ニ試験終了ノ豫定ナリ

訓令豫算額、壹八〇〇〇圓

(二)

「アラ」式「ト」コン「イ」山試験

目的、テイセル機械ヲ裝備ノ艦艇於テ軸馬力ヲ直接

0070

方法ニ依リ計測シ今時ニ各種ノ「カリチカル」回轉數ヲ
測定シ得ルヤヲ檢定スルニアリ

試驗狀況、目下横須賀訓令手續中ニシテ獨國ヨリ

購入、本式「トーションマーター」ヲ(M.A.N)式三千

馬力機械ニ取付テ試驗ノ豫定

訓令豫算額、四五〇、〇〇〇

(三)「糸ビ」翼材質試驗

目的、高速「スルビ」四翼トシテ取テ適當ナル特

種材質ヲ研究實驗スルニアリ

試驗狀況、九年十二月横須賀、十年六月吳、各

別ニ訓令セラレ横須賀、主トテ内外國製造ノ

「スチール」鋼ニ付研究中又吳工廠、製鋼部ニ於テ各

種配合、ニラレ及「クロー」鋼ヲ製造中ニテ

又別に廣文敵ニ於テ、特ニ「インテグラ」材料ニ付、研究
ヲ進ムル方針ナリ、本件ハ將來「タル」製造ノ根本
ニテ之ガ研究ニ關シテハ益努力スル豫定ナリ

訓令豫算額

廣 吳 横須賀
 一六〇〇〇
 二五〇〇 (十年度ニ於テ
 更ニ増額)

(四)「タル」ノ翼植込法試験

目的 各種「タル」ノ翼植込法ニ付其良否ヲ試験シ

之最良型ヲ決定セトスルニテリ

試験ノ状況 九年十月佐世係ノ訓令目下試験「タル

」ノ製作シ五種類ノ翼ニ就テ試験中ナリ

訓令豫算額 貳五〇〇〇円

(五)高速「タル」ノ回轉實驗

目的 高速「タル」ノ特ニ振動ニ對シ適當ニ翼

及翼車ノ構造及工作法ヲ研究スルニアリ

試験ノ状況

五年九月以降本式「タ」ロシ翼及噴

口試験トシテ吳ニ於テ實驗中ナリシガ十年十月更ニ

前記目的ニ對シ訓令ニテ翼及翼車ノ代表型式

ノモノヲ破壊スル迄高速回轉セシメ以テ根本的ニ研究

ヲ進メマツベアリ

訓令豫算額

九九、五〇〇、〇〇〇

(六)「タ」ロシ翼及噴口効率檢定試験

目的

「タ」ロシ翼及噴口ヲ使用シテ効率ノ檢定

「タ」ロシ翼及翼車ノ振動其他必要ナル附帶試験

試験ノ状況

本年四月 吳ニ訓令

訓令豫算額

三五、〇〇〇、〇〇〇

(五) 各種炭素銜帶試驗

目的

パイン式炭素銜帶ノ實用上價値ヲ見ルベシ

試験状況

九年九月吳ノ訓令豫定ノ試験ヲ了シ良

好ノ成績ヲ得タリ

訓令豫算額

四、参、八、四

(六) エヤーノ試験

目的

新考案ナル「エヤー」ノ効力ヲ試験シ範圍ニ於テ

ル一定面積ニ對シ從來ニ比シテ多数ノ噴燃器ヲ裝備シ

若クハ中央部ニ集中セシムル方案ヲ實驗セシムルベシ

試験状況

十年十月舞鶴ノ訓令ニ於テ本年四月實驗

セシカ火焰ノ状況不良ナルヲ以テ目下改造中ナリ

訓令豫算額

八、〇、〇、〇、四

(七) エヤー燃料燃焼装置試験

目的、軍艦用としてコロイタル燃料の価値を核定する

爲し、燃焼装置の研究を實施す

試験ノ状況、日英二米國製及びコロイタル燃料ノ實驗

舞鶴に於て實施せしめ充分ノ成績ヲ得テ、其後進

兵廠製造ノコロイタル燃料ヲ試験せし米國製

比シ良好ナリ然レトモ試料少額ニシテ未ダ充分ノ試験ヲ

行フニ至ラズ

割合豫算額

舞鶴

港〇四〇九、五〇

八港〇〇、〇〇

(三) 過熱蒸氣罐試験

目的、艦艇用機械に今後益高度ノ過熱蒸氣ヲ

使用スルニ至ラズ以テ高温度ノ過熱用罐ノ構造ヲ研

究シ其効力ヲ確認シ同時ニ重油專燒罐ニ代燒罐

トシテ使用シ得ル否ノ効率ヲ核定セシメテス

0075

試験状況 十一年二月横須賀へ訓令セラシ目下材料

準備中 本年中に罐ヲ製造シ試験ノ豫定ナリ

訓令豫算額 四五〇〇〇円

(一) 双轉式ノ送風機試驗

目的 双轉式ノタルロノ實用上成績ヲ知ルニテ

試験状況 九年十月英、訓令双轉式ノタルロ

送風機製作上直日試験ノ豫定

訓令豫算額 三六〇〇〇円

(二) 抽氣唧筒試験

目的 噴射式抽氣唧筒トシテアラウノハマキ式及

ローヤント式ヲ購入試験シ艦艇用トシテ適否ヲ研究

セントラルアリ

試験状況 本件十一年二月佐世保へ訓令セラシガ

従来佐世保ニテハ復水装置ノ試験行ヒ噴射式抽
氣唧筒ノ優劣ナル点ヲ實驗シ略實用ニ適シ得
ルキ成績ヲ得タルカ更ニ前記ニ種ノ外國品ニ付研究
ヲ遂クル爲メ試験準備中ナリ

訓令豫算額

參五、〇〇〇円

外ニ復水装置試験トシテ訓令額

四七五、〇〇円

(一三) 油冷却器試験

目的、各種油冷却器ノ効力ヲ實驗シ艦種ニ應ジ

最モ適當ナル型式ヲ求メトスルニテ

試験状況、九年十月以降舞鶴ニ於テ各種試験

ヲ行ヒ其内優良ナルモノ一個ニ付キ十年十月更ニ訓令

本年三月試験終了セリ本式油及冷却水ノ通路ヲ

従来ノ型下相反セシモノニテ將來本式ノ採用方考案中

訓令豫算額

壹貳、五〇〇四

(四) 空氣傳送管試驗

目的

艦内機関室に於ける通信法トモテ圧搾空気を

使用する傳送管ノ効力ヲ檢定スルニヨリ

試驗ノ状況 十一年四月横須賀ノ訓令 目下試驗準備

中ナリ

訓令豫算額

參、五〇〇四

(五) 鑄鐵熱處理法

目的

本試驗、鑄鐵ノ鑄造品に殘留せる内應力が如

何ナルヒートアンチリニアニ依テ除去セラル、ヤ又有害ナラハル

程度迄除去レ得ルヤヲ確メ以テ高級機關ノ製造ニ適ス

ル鑄鐵熱處理法ヲ研究セントスルニヨリ

試驗ノ状況

十一年十月廣ノ訓令目下各種ノ試験要

具々準備中
訓令豫算額

壹萬
〇〇〇
四

0079

(一六)

現在訓令研究事項、要領追加

タルピン式給水唧筒試験

目的

艦船用給水唧筒トシテ「タルピン」式

如キ給水唧筒ノ效力ヲ檢定シ本式唧筒ノ

研究ヲナスニテ

試験ノ状況 十一年四月横須賀、訓令

訓令豫算額

壹、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

0080

秘

大正十一年十二月
第一三號
對下ル
密檢部業三號

各工廠
研究
實験
希望事項
要領

大正十一年四月
艦政本部業五部
調

0081

類別

第一類

潜水艦用ディーゼル機械

第二類

内火艇用發動機

第三類

飛行機用發動機

第四類

主エンジンの減速装置、軸接手

第五類

補助機械

第六類

復水器管

第七類

軸承潤滑油及全管装置

第八類

煙突、缶耐着品、缶水

第九類

重油噴燃器、燃料油及全管装置

第十類

諸管装置

第二類

第三類

第四類

第五類

第六類

第七類

計器及
測量裝置
通信器及其裝置

推進器

機関用材料一般

工作機械及器具

工作法能率増進工場設備

其他

注意

各表題下括弧内横吳等各其工廠造機部

ヲ示シ機局機校大校ハ夫々機関局機関字

校大 schools ヲ示ス其ノ下ノ数字ハ原想案ニ記

載ノ番辨ナリ。

第一類 潜水艦用ターセル機械

(一) 潜水艦ノ水上水中推進機関ヲ全クナラシム研究 (機局(ロ))

之ハ潜水艦機関ノ理想ナリ

(二) 潜水艦水上推進機関ターセル機械ノ型式ヲ各艦型ニ應

ジ統一スル研究 (機局(ロ))

ニ衝、四衝、並ニ空氣噴射、油圧噴射ノ比較研究ヲナス

(三) 高速潜水艦用一白五千馬力以上ターセル機械試製 (横(ロ))

將來大型ニシテ高速力ノ潜水艦ヲ要スルニ至ルベキニヨル

(四) 小型コンバウンドターセル機械試製 (横(ニ))

(五) 中型潜水艦ターセル機械ノ補助機械ヲ直結トナスノ可否研

究 (機局(ロ))

直結トナセバ当直員ヲ減シ操縦ヲ簡單容易ナラシメ取扱

上過誤及故障等ノ機會ヲ少ナカラシムトノ説アリ

(六) 五〇階、五八階用トシテ建造セル「式」十三百馬力「式」此機械

一台ヲ掃除呷筒直結シ上陸上試験施行

「式」十三百馬力、三千馬力兩機械ノ發停裝置改造シ上陸上試

験施行（横一）

(七) 曩ニ試験済ナル「式」三千馬力「式」此機械ニ就キ其吸

錫冷却裝置改造シ上適當ナル油冷却器ノ考案ト共ニ其陸上

試験施行（横一）

(八) 「アトマイザ」ノ研究（横一）

種々ノモノヲ製造シ実験ス^{研究}重内火式機械ノ効率ハ「アトマイ

ザ」及壓縮室ノ「式」ニ態スル形状ヨリ左右セラレ、コト大ナ

ルニヨル

(九) 重油が燃焼ト爆発トヲ生スル空氣量及圧力ノ關係研究

(横一五)

重内火式機械ニ於テ間々重油カ筒内ニテ爆発スルコトアリ
其原因ハ空氣量ト圧力トニ關係スルコト大ナリト認ルルニモレ

(十) ソリッドインジェクショント研究 (横一六)

重内火式機械ニ於テ空氣圧縮唧筒ハ可ナリノ発生馬力ヲ
消費スルモノナル故ニ之ヲ省ク目的ヲ以テソリッドインジェクションヲ
行フ方法ヲ実験研究ス

本試験ハ燃焼室及アトマイザラヲ製作スルニミテ足ル

(十一) テーセル機械消音器ノ研究 (横一七)

(十二) 内火式機械歪輪用材料ノ研究 (吳三)

3 最モ摩耗少ク製法取扱容易ナル鋼又ハ鉄ヲ研究シ機

機ノ所與得所ニ於テ永久ニ換裝スルコトナリ使用シ得ル材
質ヲ撰出ス

六年度機械至輪至鋼ノ材料ニ於テ各種ノ材料ヲ使用シ

最モ其ノ材料ノ多量ニ含ムルハ加工困難ナルコト

(三) 潜水艦推進軸用掛外ニ接手比較試験(横ニ六)

「ロ」式「ア」式「イ」式「エ」式「オ」式等各種ノ材料ニ比較試験ヲ行ス

(四) 内火式ロケット機関ノ試製實驗(横ニ五)

第三類 内火艇用發動機

(一) 内火艇起動ニ際シニ等石油ヲ最モ簡便ニ使用シ得ル装置研究(横一九)

現今揮發油ヲ使用シ然リ不便危険ナル故初メ「プロランプ」
或ハ電氣装置ヲ使用シ完全ニ蒸化氣ヲ得ル装置ヲ研
究ス

0088

第三類 飛行機用発動機

(一) 吸錐、トシエノコ、レシエム合金ニ亜鉛含有量、多少カ強カ及耐

久力ニ及ス影響者研究 (横一七)

一%ヨリ一五%迄ノ亜鉛ヲ混入シテ実験ス 現在ハ差支キキ

物ヲ得居レドモ一般ニ如何ナル程度迄混入シテ可ナリヤ知ルヲ目

的トス

(二) 発動機ノ圧縮容積比ノ研究 (横二〇)

飛行機用発動機上空ニ於ケル動作ハ、ス、今キヤ、シノ方法及

高压縮ノ方法何カ宜敷キヤ決定スル目的ヲ以テ圧縮比ヲ

変化シ得ル試験用一〇〇馬力発動機ヲ製造シテ実験ス

(三) 発動機ノ筒冷却水温度カ發生馬力ニ及ス影響者ニ冷却水

温度ノ最高限ノ研究 (横二一)

冷却水温度、発動機、寿命ニ関スルコト大ナルヨリ 研究ス
(四) 吸入管ノ形状、発動機ノ効率ニ及ス 影響研究(横八)
各種形状ノモノ約十二個製造シテ上実験研究ス

0090

第四類、主たる減速装置、軸接手

(一) タルビンノ研究 (佐二)

タルビンニ関スル研究ハナホ不充余ナリ翼植込法、翼車嵌込法等ノ研究、適當ナル計画寸法ノ制定、海軍型タルビンノ制定等ハ刻下ノ急務ナリ

(二) タルビンデスターノ振動研究 (横八)

(三) タルビン翼車高速回轉試験 (横九)

(四) 吉野式双轉式タルビン実験 (呉五)

第一段落ニ普通ノインパルス・テリジヲ採用シ良好ナル効率ヲ得ントスルモノナリ目下訓令ニヨリ^施美職中ナル平賀式双轉タルビント約公一力量ノモノヲ製造シ平賀式ト比較試験施行シタシ

(四) タルビシノ初翼ニ關スル研究 (機校一三)

高速タルビシノ翼ノ欠損防止ノタメ其材質差ニ植込法ノ徹底的研究

(六) タルビシノ噴口配置法ノ研究 (機校七)

翼車ノ振動軽減ノ目的ヲ以テソノソノ一部ノミニ備在ヒシメズ全周ノ散在セル研究 (但シ翼列ノタメキモノヲ除ク)

(七) タルビシノ蒸汽機部ニウタークランドノ使用ノ研究 (機二)

蒸汽ノ漏洩ノ軸兼潤滑油ニ水分ノ侵入ノ軸兼加熱ヲ防ク目的ヲ以テ可成「予リシ」只ス「少キ」構造「モノ」ヲ案出ス

(八) タルビシノ主機械ノ反転装置ノ研究 (機校一七)

後進タルビシ又ハ電氣推進ヨリ又反轉接手ノ如キモノニヨリ

千反転レ得レ装置ノ研究、齒船用トシテハ既ニ四、五、十馬力
ノモノアリ研究セハ尙大馬力ノモノモ應用シ得ルニ至ルハシ

(九) 減速齒車裝置ニ於テハ齒面ノ「ピンチ」臭ニ於ケル點蝕防止法
ノ研究(棧校大)

外國雜誌等ニ種々論議セラレ居ルモ果シテ如何ナル理由
ニヨルヤ研究ノ上其防止法ヲ案出ス

(十) タルピン 嚙合接手ノ研究(棧局、一三)

タルピン軸ト見齒車軸ト間ノ嚙合接手ノ取扱容易ナルモ
ノ研究案出

從來ノモノニテハ啮合ニ多大ノ時間ヲ要シ編隊等ノ場合ニハ
行動ニ支障ヲ来ス慮アリ

(二) 齒車ノタルピン構成部ノ研究(廣大)

第五類 補助機械

(一) 艦船補助機械重量軽減ノ研究(横七)

高速スチールハルビン又ハ電動機ヲ以テ選取スル方針ヲ以テ適
当ナル型式ヲ採擇スニ其研究

(二) 諸補助機械及附屬裝置ノ製作統一研究(大坂四)

(三) 補助機械ノ研究(横高九)

用途ニ應ジ適切ナル計畫ヲ得ルヲ以テ陸上試験ニ効率

試験ノミナラズ實用試験ヲ徹底的ニ行フヲ要ス

又予備品流用ノ便宜上型式統一ヲ要ス

(四) 復水裝置ノ完成(横七)

目下当部ニ研究中

陸上試験ニ相当成功セルモノハ艦船ニ具體的研究ヲ要ス

ソレガタメ新製ニ專駆逐艦一隻ニ裝備シ完全ナル實用試
験ヲ経クニ他ノ新艦ニ裝備ナルモトシタシ

(五) 密閉給水装置ノ完成(横六)

ソレガタメ若クモ其他類似ノモノニテ徹底的試験ヲ行ヒテ正
其他ノ腐蝕ヲ防止スル方法ヲ研究ス

佐造機部ノモノニテハ充分ナリ

(六) 空気放射器ノ完成(横九)

密閉給水装置試験ト共ニ本試験ヲ行ヒ適當ナルモノヲ案
出ス

佐造機部ノモノニテハ尚不充分ナリ

(七) 回転式給水唧筒ノ研究(大坂、ソ、ニ)

従来ノ直動唧筒ニテハ給水温度一五〇度以上トシテハ不具合ト

ナル故回転式ノモノヲ研究ス「フエツチシゲル」式減速機関ハ
其効率八九%ニモ及ブ由キレ故回転式給水唧筒モ相当
高率ノモノヲ計画シ得ヘシ

(八) 缶室強圧通風装置ノ研究(大枝、コノ、三)

タルピン式送風機械ノ低速力ニテ不経済ナラキルコト電動送

風機、通風路ノ形状、缶室空氣配分方法等ノ研究ヲナス

(九) 缶室送風機ノ研究(佐、三)

現在モノハ不経済ナリ、低速使用ノ場合ハ殊ニ甚シ

減速装置附ノモノノ研究ノ要イラン

(十) 蒸化器管腐蝕防止ニ「スゲル」附着防止法ノ研究(枝、枝、九)

缶管或ハ復水器管防蝕ノタメ用ヒタル、電流ヲ流シテ行フカシ

「バーランド」法ノ如キ方法ヲ研究案出ス

13

0096

(江) 諸補綴 並ニ復水畧ノ研究 (廣八)

0097

第六類

復水器管

(一) 復水器管形状ノ研究 (機校 五)

蒸気ト管外面トノ觸接ヲ完全ニシムルヲメストリウムライソ

形管ノ製作ヲ研究ス又近來「ハート」形管ノ有利ナルヲ

説クモノアリ

(二) 復水器管用材質ノ研究 (機校 三)

腐蝕セサル復水器管材ヲ研究ス

(三) 復水器管ノ防蝕法研究 (佐九)

腐蝕ノ原因並ニ其防遏法ヲ徹底的ニ調査研究ス

(四) 復水器細管腐蝕止法研究 (機局 二)

第七類 軸系潤滑油及分管装置

(一) 大サ重量共ニシキ軸系ノ案出(大校一〇七七)

「シツケル」式「ジャリ」軸系ハ此處ニ於テ優良ナリ我海軍
独特ノモノヲ研究考案出ス

(二) 高速「タルビ」軸系ノ研究(吳一)

軸系内油膜 圧力ノ構成ニ關係アル諸元ヲ研究最良
ナル軸系ノ計画ヲ容易ナラシメ併テ高速「タルビ」取扱上
必要ナル事項ヲ知ラントス

(三) 高速「タルビ」軸系及之ニ適当ナル潤滑材并ニ軸系合金等ノ

研究(横九)

(四) 主機械諸軸系油温度ノ最大限度及其性状変化ノ状態

15 研究(機校一)

現在我海軍ニ使用スル外部礦油ニシテ安全ニ使用シ得ル軸

系温度ノ最大限度ヲ研究決定ス

外國産外部礦油ハ華氏百八十度以上ニ達スレバ酸化作用ヲ

起シ二百四十度以上ニ達スレバ程度ヲ失フト云フ我海軍ニテ

使用スルモノハ百六十度ヲ限度トスト云フ

(五) 主機械親齒車軸ニ取付アル主推力軸系ピボット位置ノ研究(機械學)

「シキセル」理論ノ如ク油圧中心ヨリ前後圧ニ置ク様計画スレバ

現在ヨリモ摩擦係數ヲ減シ得ベシ

(六) 温度對潤滑油關係研究(機務學)

昔八百三十度ヲ限度トシタルモ今ハ時ニ百六十度トナリテモ故

障ナキコトアリ現在使用ノ外部油ニシテ温度ト關係ヲ充分

實驗シテ表セラルダシ

ナホ水ノ混入割合ニツイテモ潤滑油効率ニ及ボス影響ヲ研究
セラレタシ

(七) 軸系摩擦係数ヲ最低ナラシムル油ノ研究 (横倉三)

各種ノ油ヲ混合シテ軸系摩擦係数ノ最低ナルモノヲ撰出ス
英米海軍ニ於テハ外部礦油ニ各種動植物油ヲ混合シテ
研究中ナリト云フ

(八) 潤滑油トシテ礦油ノ適否

植物性油ト鑛油トヲ混合スル可否及混合シテナルモノ其
割合ノ研究 (横倉三)

(九) タルビン前部推力軸系注油法ノ研究 (横倉三)

17
タルビン前部推力軸系注油系中最高ノ位置置ニアルヲ以テ
注油唧筒故障ハタメ一時停止スル如キ場合ニ忽チ空虚ト

ナリ軸系ノ燒損引テハシムルニ翼ノ欠損ヲ生ズ油入口戻止
余如キモノヲ付テ油ノ逆流ヲ防グ研究ヲ要ス

(5) 重カ油ヲシクノ容量(機校出)

注油唧筒ガ停止スルコトアル場合ノ應急策トシテ自動的ニ此
タンクヨリ送油シ推カ軸系燒損ヲ防止スル方法ノ研究現
在ノタンクハ此ノ目的ニ向ラテハ其容量過少ナリ

第八類 煙突耐用品、生水

(一) 重油專燒生、研究(舞二)

主トシテ 驅逐艦重油專燒生ニ関シ 釜管、大サ、降路管、蒸流過熱器、蒸流和魔板、重油噴燃器、大サト網數ト、關係等、研究ヲス

(二) 空氣圍及コトニ改良研究(機枝三)

空氣圍及コトニ 數種ヲ製作シ 各種燃燒度ニ對シ 空室內通風壓力及空氣圍ノ 間度ヲ變化シテ 空、効率殊ニ燃燒、効率ヲ比較研究シ 最良ナル裝置ヲ案出ス

(三) 水面計位置、研究(機局五)

高力運轉、際ハ汽水混合ヲ避ケルヲ、低燃燒度ノ際ヨリ 水俾下下ガル必要アリ 此場合ニ對シ 現在、水面計ノ位置ニテハ 便アリ工夫ヲ要ス 一說、高力係ガ、兩場合ニ應ジ 概而論スルニモ、

(四) 釜管防蝕法研究(佐、一)

釜管の腐蝕を防ぐ徹底の方法ヲ研究ス

(五) 給水加減器ノ研究(佐、二)

ワルト式ノ末知理想のナラズ、新案ヲモ等ニ對シ研究ヲ要ス

(六) フリガージェットノ研究(舞、六)

内地品材料不良ナルミナラス購入困難ナルヨリ此際本「ジェット」ニ關シ研究ヲ要ス

(七) 釜用耐火煉瓦ノ製造法研究(横、三)

内地製品ハ殆ンド完全ナルモノナシ、適當ナル製造會社ヲ補助シ協力研究ス

(八) 耐火煉瓦ノ試験及製造法研究(佐、五)

原料及製造法ニ關シ詳細ナル規定並ニ徹底的試験法ヲ制定スル根

本的研究主要に現在市場ニ於ル煉瓦ノ何レモ耐久力全ク不良ナリ、

(九) 重油専焼並用耐火煉瓦ノ性質並ニ築造法研究(機局ニ)

現在ニモ不完全ナルニシテ、

(八) 煙突ノ最小最低限度ノ研究(大校ニ)

(七) 煙突防禦ノ高サ及煙突破損ニ對スル研究(大校ニ)

療艦下ノ軍艦ニテ突地試験ヲ希望ス

(六) 空ニ供給スル空氣ノ加熱裝置研究(大校ニ)

煙突ニ逃カル熱ヲ利用シ得ベシ

(五) 重油専焼並ニ於テ油煙防止法ノ研究(機校ニ)

並ニ効率ヲ高セザル範圍ニテ火床ニ形成シ油煙ヲ防止スル方法ノ案出

(四) 空腐蝕原因ガ給水中ノ空氣排除法ノ研究(機校ニ)

21 獨逸ニ於テ研究結果給水中ニ少シ重油ヲ混入シテ空氣泡ヲ遊離ヲ

容易ナラシムルコトヲ存見セラルルモ由テ凡ソノ先ノ保安上面自カラ入何
等カ他ノ良法ヲ研究シ実案出スルヲ要ス

(五) 蒸水ニ蒸溜水が最モ適当ナリトシテ使用ニシテ下果シテ絶對必
ナル下疑ハシク実験解決ヲ望ムニ其効率増進上効果有クシ

(六) 本邦各埠港供給ノ清水が艦内蒸溜ノ蒸溜水ト比較シテ如何程ノ相
違アリヤ、研究(機校ニモ)

本邦各埠港供給ノ清水が並用トシテ純粋ノ蒸溜水ト有テ

七八各港務部等ニ於テ其蒸溜水トナシ或ハ他ノ方法ニテ有害物ヲ除
去シ艦内ニ供給スル方ヲ研究其費用勞力共ニ経済トナラシ

0106

第九類 重油噴燃器燃料油及合單裝置

(一) 重油噴燃器研究 (舞三)

現在、其改良及燃料用之新案

(二) 重油噴燃器及「~~二~~」改良 (大枝言一)

米海軍試驗成績ヲ見ルニ日本海軍式、非常ニ差アリ

(三) 噴燃器ヲ增(減)ス際、時隔研究 (機局言八)

其生命維持係在噴燃器ヲ增(減)ス際如何程、時隔ニ要スヤ
其燃燒度變化ニ對シ、許最短期間、測定研究

(四) 重油噴燃裝置及防火裝置研究 (機局言六)

防火ノ目的ニ對シ、樣噴燃裝置ヲ工夫シ、尚防火裝置ヲ一層科學的研究

(五) 重油漏洩防止法並機測室防火裝置研究 (機枝言二)

(六) 重油液ニ存在スル水ノ混入量計測器ノ案出 (機局言一)

23 最近混水量計測裝置並分離方法考案セラルルモ尚改良余

(七) 燃料の節約 (並三)

地より取扱最も容易なる、案出さるべき

「コウノリ」燃料、各種油質燃料、粉炭、炭燃料、海苔、根本的研
究をすべし。

第一〇類 諸の管装置

(一) 蒸気管装置其他諸管の最大限度、研究及之の簡便なるを統一研究
究(大枝三)

(二) 蒸気管装置中蒸気圧力降下を防止する方法の研究(横六)
管の形状如何、圧力降下の影響を大なる此等、研究する

0109

第二類 計器及 特殊装置通信器及其装置

(一) 諸計器の完成(核高二)

用途ニ應ジ完全ニ作動スルモノヲ研究出来出ス

輕便 駆逐艦用ノ「ナカ」ハ上ニ回轉計ヲ用リ「ナカ」ハ電氣

回轉計ハ殊ニ其合ナリ

(二) 蒸分装置計器、特殊装置(核高一)

蒸化器 復水器 蒸分器 報告機等ヲ考案装置シ

僅少 蒸溢 漏洩ニ道ニ漏直管ニ知ラシムル如クシテ云

保存法 効率増進等計也

(三) 艦内ニテ「ナカ」計測出来難キモノ、亦諸計測器其装置

問題ヲ解決スルニ「ナカ」

(四) 重油流量計、研究(核)核(二四)

艦船ニテ燃料消費額試驗、際精密ニ使用量ヲ計測シ得ル様、送付層内ニ計量計裝備ノ研究

(五) 潜水艦ニテ重油下付(計)測裝置ノ研究(核)核(二二)

(六) 艦船重油下付(計)測、有差ヲ除却、知得其之ヲ取

去也、裝置ヲ裝備至、可寄並ニ取付ケルモノモ其

裝置ノ研究(核)核(二〇)

(七) 諸計器、指示器、通信器等、研究(核)核(三〇)

現在、モノ不完全ノモノ多ク、故適宜ニ其製造會

社ニ補助ニ協力研究ス

(八) 通信裝置、日取モ有効ニ且簡單ニナス研究(核)核(六)

第一類推進器

(一) 推進器翼腐蝕の研究 (機局七)

高速回転推進器翼の腐蝕防止策とその侵蝕程度に應ずる強

度減少の割合の研究

(二) 推進器の腐蝕防止原因並防止方法等に関する研究 (機校六)

徹底的な実験研究を行ひ之が防止法及び起る材料

の研究

第一三類 機關用材料一級

(一) 材料の研究 (他八)

ナリトモ新異正管復水器管鉄等ヲ製造シ現在材料ニ價廉
モノヲ研究撰採ス

ニテハアルミニウム等ノ如キニアルニ含有材ハ腐蝕セラル故永年
使用ニ得ルノミナラズ熔シテ再用スルコトモ出来ル故最初ハ高價ニモ結局経
済ナル事トス

(二) 特種鑄鉄 特殊鋳各種銅合金 銅 ニッケル アルミニウム 鉄 滿 俺 亜鉛

シリコン アンチモン 錫 燐 鉛 等ノ各種配合 輕合金ノ研究 (横四)

中央大研究所ヲ設ケ各廠ニ相当研究核関ヲ置キ是等金

屬材料ニ関シ徹底的研究ヲス

0114

(三) 鑄物ノ研究 (舞四)

主として鑄鋼物ニ對シ過熱蒸汽用上レテハ勿論將來ノ瓦斯カブル
ニ用上レテモ過當ナルモノヲ研究ス

(四) 過熱蒸汽用材料及至用過熱管裝備ノ研究 (天核一〇一五)

將來過熱蒸汽ノ必要増々多クナルニシテ

(五) 過熱蒸汽用核燃料材料 (カドミウム)ノ研究 (天核一〇一六)

將來ハ高圧過熱蒸汽使用ニヨリテカドミウムノ効率増進ノ趨勢
ナルニシテ

(六) 過熱蒸汽ニ對シ防熱材料及至金属材料ノ研究 (核核八)

熱處置ヲ受ケタル構成材料並ニ常熱作用ヲ受ケル材料ニ對シ材料試驗
(核核二三)

31

(八) 齒車適合部等使用合金研究 (廣四)

齒車等適合部使用合金研究 (廣四) 齒車等適合部使用合金研究 (廣四) 齒車等適合部使用合金研究 (廣四)

從來燐青銅其他ノ使用例ニ付テ材料試驗規格ニ並行シ

硬質ニ種ノ燐青銅アリ其ノ何レヲ用ルル規定ナリ鋳物製造

量極小ニ裁量ニ依リテ例トシ統一ナリ現狀ニ付テ

(九) 海水ニ暴露スル異種金屬ノ保護研究 (廣八)

現狀ニ付テ不完全ニ付テ尚一曾有効ニ防蝕法ヲ研究

(六) 鋼鑄物ニ関スル研究 (廣二)

(二) 鑄鉄及各種合金類ノ研究 (廣三)

(三) 鑄鋼特種鋼ノ鍛煉熱處理ノ研究 (廣三)

0116

第一四類 工作機械及器具

一) 工作機械の研究 (概)

使用の目的、対して最も有効で且経済的の機械撰択並に其配列法等に関する研究

二) 工具製造及研究 (概)

適当に経済的且工具製造法の研究

三) 切削用刃の決定 (概)

各種特種鋳製工具の各種機械に掛り各自対して適当な切削用刃の研究決定

四) 刃物構造研究 (概)

刃物の熔接、各種のホルダーに使用せしめたり或は一体として

33

その内何れも最も経済的たりや、主としてその実験研究

0117

(四) フラックスの制定 (横二)

工作機械のフラックスの最低量ヲ調査制定ス

(六) フラックスの制定 (横一四)

金型螺型等ニ関スルフラックスヲ研究調査シテ之ヲ徹底的ニ制定ス

(七) 電気炉の研究 (舞五)

高速及鈍工具ノ制作ヲ電気炉ニテ研究發展セシメ

当ノ欲ヲ節々ニ各方面ニ供給セシメ

(八) 鋸製造法研究 (横三三)

直至一呎以上ノハキリソノ及ハドノ内ニ地製モノハ實

用的ナラサルヲ其ノ製造研究ス

第一五類 工作法、能率増進之設備

(一) バランスシテ 對志實驗及研究 (大森 三三)

機械故障ノ大部分、而辰動ニ原因在モ、故如何ニ型式、機械

ニ對シテモ、ハランシテ、徹底的ニ行、必要アリ

(二) 鑄型乾燥炉ニ於テ溫度計測法、右種鑄型乾燥ニ適ス

溫度ノ研究 (榎枝 一五)

炉内溫度計測法右種鑄型乾燥ニ適ス、溫度炉内溫度

ノ適當ナルニ自働的調節法ノ研究、之等乾燥中鑄型

ノ破損ヲ防止セラス

(三) 熔接法ノ研究 (他七)

鑄鉄、鑄鋁、勿論鍛鉄ノ如キモ尚經濟的ニ出來ル様

35 研究ノ要ス

(四) 炭條、製法及試験検査規定 (規六)

炭條、製法及試験検査規定、試験検査規定、製造要
内地各、一級、劣等、二級、検査規格、不充分、
シニラ

函 圧搾酸素製造研究 (舞七)

圧搾酸素製造所、新設、
検査、確實、
検査、確實、
検査、確實、

(六) 実験心理学應用 (規一三)

職工、実験心理学、應用、
職業、改善、工場、生産、増進、
職業、改善、工場、生産、増進、

36 (七) 船舶、
船舶、
船舶、

(八) 中央研究所 設置 (横二七)

東京或、横須賀ニ設置ノ所長以下適任者ヲ選置ナリ

一流ノ専門員及、學子者ヲ囑托シ、大々的ノ研究ヲナス

(九) 中央研究所 設置 (横二七)

(一〇) 亞鉛銀場 設置 (横二四)

造杯甲、乙、丙、丁、戊、備、下、要、入

第六類 其他

一 船体動搖、機関動作及主機御書ヨリ各部ニ及ボス應力ニ對シテ研究ノ實驗ニハ大枝ヨリニ

小艦艇ニ特ニ必要ナリ

二 過負荷若ハ過高カニ於テ其ノ最初ニ破壊ヲ留メテ若シテ連続使用トシテ其初メノ部ニ檢査ヲ研究ニ大枝ヨリニ

凡ソノ機械ニ對シテ艦艇的ニシテエンジン等作リテ破壊ヲ連続運転

ヲシテ之ヲ實驗計ニ查テ改良ニ進歩セシム

三 實際推力ヲ測定スル方法ノ研究ニ大枝ヨリニ

推進軸ノ實際推力ヲ測定スルハ機関及艦体ノ出来不出来判定

ニ好材料ナリ

- (四) 工場機械及製法研究 (船隻手帳易の應答特理)
- ヲ為得ル様ニモ研究 (大板也)
- (五) 船中搭載品最低限及研究 (大板也)
- (六) 新式推進機械 (ガスタービン) 研究 (廣七)

0123